

# 中



## 熊本県立宇土中学校・宇土高等学校

### 図書館活動の取り組み

本校は、中学生240名、高校生686名が在籍している。図書館は外廊下でつながる別棟の2階にあり、敷地内の一番奥まった場所にある。蔵書数は令和2年度3月末で65,048冊、令和3年度2月末で貸出冊数は中学生が一人当たり29.0冊、高校生が4.7冊であった。

中学生と高校生が在籍しているため、12歳から18歳までの生徒に幅広く対応することになる。図書の選定もそのことを考慮して行っている。朝読書の時間が10分間、年間を通してもうけられている。

「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受けていることもあり科学に興味を持ってもらえるような本のコーナーを設置し、貸出で減っていくごとに別の本を並べている。

また、「グローバルリーダー育成プロジェクト」も推進しているため、英語関係の資料や洋書を集めたコーナー（書架）をもうけている。



図書館の場所が生徒の通常の動線上にないため、お知らせ等の広報を売店横の廊下に掲示している。

今回、読書教育重点校としていただいた図書カードでは進路学習に役立つ学部研究のシリーズ本と、一問一答で広く深く一つのテーマを知ることができ、目でも楽しめるシリーズを購入した。中学生から高校生まで関心のあるテーマであり、よく手に取られていた。

新しい取り組みとして、昨年度から生徒が持つコンピュータ端末から蔵書検索ができるようになっている。この導入の目的の一つに合理的配慮があげられる。図書館がエレベーターもなく、階段を上らねば実際に本の検索も見ることができない状態であるため、利用できない生徒がでてくる。そのため、どこにいても図書館に本があるかどうかを検索し読む手立ての一つとした。

また、一人一台の端末を生徒が持っていることを利用し、図書委員会作成の広報紙(月1回)や図書館からのお知らせ、新着案内(随時)などをデジタル配信とし、朝の読書のアンケートも端末を通して行った。



〈今後の課題〉  
 情報を読み解く力がますます必要になっている現在、学校図書館を上手に利用してその力を付けてもらいたい。それと同時に大きく変化していく世の中を生き抜く力を、読書を通してつけてもらいたい。そのためには、生徒の動線上にない図書館にいかにして足を運んでもらえるか、いかに上手な図書館利用の仕方を伝えるか、そして、教科との連携を増やし、学習展開に寄与することができるか等、課題がつかない。

